

2014 年度デジタルプラクティスアワード報告

デジタルプラクティス (DP) の目的は、ICT 実務の現場での実践やそこから生み出される知見を広く社会全体で公開共有し再利用することです。この目的に最もかなう論文を1年に1編選び表彰しています。2014 年度デジタルプラクティスアワードは以下のように決まりましたので報告します。

記

受賞者：荒牧敬次¹、岩野和生¹ (¹ 技術研究組合北九州スマートコミュニティ推進機構)

受賞論文：北九州スマートコミュニティ創造事業—日本初の本格的ダイナミックプライシング社会実証— (Vol.5 No.3 (通巻第19号), pp.180-188)

論文概要 (Web ページ http://www.ipsj.or.jp/award/dp_award.html から転載)：国の次世代エネルギー・社会システム実証である北九州スマートコミュニティ創造事業では、2010 年度から5年間の計画でマスタープランを作成し、各種実証環境の整備を開始した。そして、2012 年度からは実電力契約に基づき多段階のクリティカルピークプライシング (CPP) を中心としてダイナミックに電気料金を変動させる日本発の本格的ダイナミックプライシング社会実験を行ってきた。料金変動に対する需要家の行動変化によるピークカット効果の検証を行うとともに、社会制度への実装に向けた新たな課題について考察を行った。

表彰式：ソフトウェアジャパン2015懇親会(タワーホール船堀, 2015年2月3日)にて賞状および記念品を贈呈した(写真)。



左：平田委員長，右：荒牧敬次氏

選考方法：選考委員会であるデジタルプラクティス編集委員会委員は2014年1月～12月に発行されたDPに掲載された全論文(招待論文, 投稿論文含めて全32編)の中からベストプラクティスが十分に記述されていること, 論文として内容・構成が優れていることという観点から, 特に優秀と認められる論文を選定した(デジタルプラクティスアワードに関する Web ページ http://www.ipsj.or.jp/award/dp_award.html をご覧ください)。

以上